

みんなの笑顔のため

元気に活動してま〜す！ Part 2

先月号に続き、益城町地域福祉基金の運用収益を活用して行われている、民間団体や住民組織による創意工夫をこらした自主的な活動を紹介します。



ふれあいアンドヘルプ事業



「ふれあいアンドヘルプ事業」は、町老人クラブ連合会のシルバーヘルパー部会がボランティアとして行っている友愛訪問活動です。

県老人クラブ連合会が実施する養成講習会を受けた元気な高齢者が、一人暮らしや寝たきり、病弱な高齢者などの家庭を訪問し、話し相手やいろいろな情報の提供、日常生活の支援等の活動を行っています。また、そのための研修会も実施しているほか、地域サロンへの協力、福祉施設への奉仕もしています。

お互いの顔を見てホッとすると、このような人と人のつながりを大切にして、地域の絆を深めています。

広崎 地域の交流の場づくり

木本悦津子さん（広崎 1 町内）を中心にスタッフ 5 人で組織する広崎のえんがわ運営委員会では、若い母親と子どもたち、高齢者など、地域住民が交流を通して顔見知りとなり、声をかけ合い、助け合い、育て合う場を提供したいとの思いで活動しています。

プログラムに沿った地域サロンとは違い、参加者やスタッフの「顔が見える範囲、声をかけ合える範囲」で、手をつなぎながらおしゃべりしたり、みんなで料理をして食事の時間を楽しんだり、まさに地域の交流の場づくりを行っています。参加者からは、「ここが一番ここちのよか」「一番楽しか時間が過ごせる」と喜ばれています。

近くの保育園に声をかけ、ジャカイモ掘りや玉ネギの収穫を行うなど、子どもたちにも楽しんでもらっています。参加者もまた、子どもたちと交流することで、幸せな気分を味わっています。

多くの地域で、住民たちによるいろいろな活動が広がるよう協力していきたいとスタッフは話しています。



お茶しませんか

村上眞智子さん（惣領 4 町内）と藤永律子さん（同）が中心となって行っている「お茶しませんか」では、高齢者の親睦を図りながら外出の機会をつくることで、健康寿命が伸びる一助となるよう活動しています。

村上さんは、自分のためにも高齢者のためにもなるような活動を行いたいと考え、自分一人ではできないことも藤永さんと一緒にならできるのではないかと思います、活動を始めました。

主に惣領 4 町内の公民館で活動していますが、花見に出かけたり、ブルーベリー狩りに出かけたりするなど、「どがんするとみんなが和気あいあいと過ごせるか」と試行錯誤しながら活動を行っています。

参加者から「楽しかった」の声を聞いたり、家に閉じこもりがちの人が参加してくれたりすることが、「とても楽しかです」と話す村上さん。「惣領以外の地域の人も、みなし仮設の人も参加しています。どなたでも参加してください」